

株式会社 加貫ローラ製作所



総務部執行役員部長 井出敏彦さん

当社は明治32年、初代が石の表面に絵を描き転写する石版印刷用のローラーを製造。大正12年にゴムローラーを開発し、印刷機に使用するゴムローラーの製造メーカーとして展開してきました。ゴムローラーは、鉄などのローラー芯にゴムなどの弾性物質を巻いたシンプルな仕組みになっています。が、たとえば耐熱や耐溶剤性、耐摩耗性など、製造過程で必要な機能がゴムに求められます。ゴムローラーの機能面における研究開発や技術力に重点を置いているからこそ、印刷機械だけでなく産業機器資材、O/A機器、住宅資材、生活資材など様々な業界の生産現場を支える機械で活用されるわけです。

すべてを自動化せず、薬品配合や芯とゴムとの接着は人の手で行っています。多品種、少量注文にも対応でき、また大手が参入しやすい市場で戦うことができるわけです。

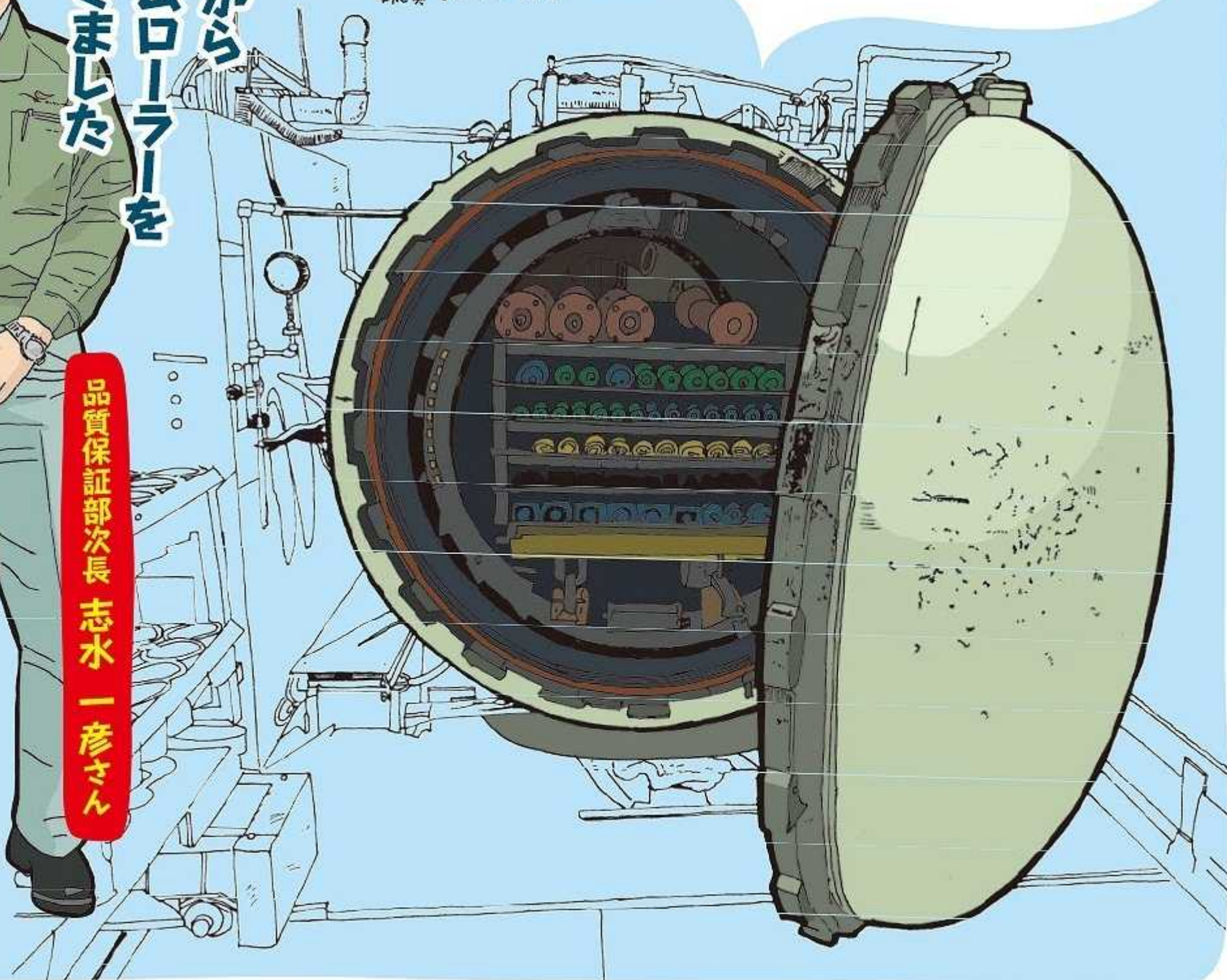


品質保証部次長 志水一彦さん

大正12年から
印刷用ゴムローラーを
製造してきました

加硫(カイヤウ)とは、ゴム系の原材料(生ゴムなど)を加工する際に、弾性や強度を確保するために、硫黄などを加える工程のこと。

タイムカプセルのような
巨大な加硫装置



印刷、OA機器、住宅資材など 様々な生産機械に使われる ゴムローラー

テレビ番組で、新聞や雑誌の印刷シーンで紙が流れるようにローラーから押し出されるのを見たことがある人は多いはず。同社は、その印刷用ゴムローラーを製造する先駆的存在だ。現在では印刷だけにとどまらず、様々な業界の生産現場のゴムローラーを開発、製造している。複数のローラーを組み合わせて使うオフセット印刷機では、特に同社の強みを発揮。新聞や雑誌など紙だけでなく缶、ペットボトルの樹脂ラベルの印刷機にも使用されている。プラズマテレビの電磁波シールドフィルム、スマートフォンやパソコンの画面を構成する高機能フィルムなどの製造にも、同社のローラーが活用される。

ローラーに使用するのは、合成ゴム。弾力にとんで、薬品の配合によって機能を付加しやすい特徴がある反面、温度変化でふくらんだりしてしまう面も。正しく回転するには凹凸のない表面、均一の層など高い精度が求められる。異物の混入にも徹底した注意をはからなければならない。

ゴムは、加硫反応といって薬品をまぜ加熱することで弾性体に変化。加硫反応は目に見えず、一度、弾性になったものは再利用できない。だからこそ、ゴムにまぜる薬品の配合や組み合わせが重要。機能を付加する薬品配合の研究開発に重点を置いているからこそ、他社が追随できない高機能ゴムローラーを製造できるわけだ。

株式会社加貫ローラ製作所

<http://www.katsura-roller.co.jp/>
〒544-0005 大阪市生野区中川5-3-13
TEL06-6751-1121 FAX06-6754-4400

事業内容/印刷および工業用の高機能ローラー、印刷関連商品等の開発・製造・販売(オフセット印刷機をはじめ、鉄鋼、住宅資材、フィルム製造など多業界、多製品の製作、製造に使うゴムローラーの製造)

特に
オフセット印刷に
強みを発揮

原料のゴムから製造、
検品まで一括管理しているので
品質に自信

長さ、太さ、大きさ 様々なローラーを製造

我が社の 自慢

手のひらにのる小さなものから、最大だと全長12m、直径1mもの巨大ローラーまで製造可能。滋賀工場には、ゴムの練りセンターも完備。多品種、少量生産の対応力を備えている。

ゴムの練りセンターは、
長年、経験を積んだ
熟練者の手による
丁寧な技術だ。

経験がモノをいう仕事

自分で作っている
達成感がありますね

やっぱり人の手じゃないと
出来ないことがある

